

経営方針と対処すべき課題（有価証券報告書より）

1 目指す姿と数値目標

経営方針

含窒素有機化合物のコアテクノロジーを進化させ、高付加価値高機能製品を提供し、社会発展と株主価値、従業員の働きがいを実現する企業を目指す。

売上高
247億円

営業利益
33億円

ROIC
8%

新製品売上高比率
30%

2 中長期の経営戦略

1. マルチプラント群の拡販

CM I～IV、パイロットプラントの有機的組み合わせで有機金属触媒関連製品や光学材料製品を効率的に供給。

3. 気相プラント将来計画

気相/アミン技術融合でCO2吸収アミン量産化を検討。製品ポートフォリオ見直しとCO2削減両立を課題に。

2. アミン事業の競争力強化

アミンプラント再構築(2027年完了予定)と国内外協業で生産体制を最適化。CO2吸収アミン拡販を加速。

4. 有機金属触媒関連製品拡大

世界市場規模の増加予想に対応。技術力と信頼で新規開発品目要望に応える。2025年度以降の業績貢献を期待。

3 対処すべき課題

① 経営環境の不透明性

- ・ 米国政策転換、為替相場不安定化、地政学リスク対応
- ・ 触媒関連製品の需要回復遅れへの対応
- ・ 売価改定と拡販による収益確保

② 前計画の利益未達からの復帰

- ・ ROIC 8%達成(2024年度実績1%から改善が必要)
- ・ 医農薬中間体の堅調推移を維持
- ・ 有機金属触媒・電子材料の需要回復加速

③ 経営基盤の強化

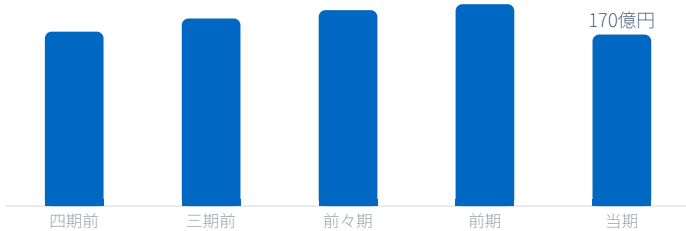
- ・ 社員エンゲージメント指標2027年度4.0以上達成
- ・ DX推進(One KOEI Platform拡充、AI活用、デジタル人材育成)
- ・ TCFD提言に基づく気候関連情報先行開示

面接で使えるポイント

- ・ 含窒素有機化合物のコアテクノロジーを基盤に、2027年度売上高247億円・営業利益33億円を目標としている。
- ・ CO2吸収アミン製品により2050年カーボンニュートラル実現に貢献し、2028年度以降のビジネス拡大を計画している。
- ・ 社員エンゲージメント指標2027年度4.0以上達成を目指し、DXとサステナビリティ革新で企業価値向上を追求している。

証券コード 4367

業績の推移（売上＝棒 / 営業利益＝線）



要するに
化学素材メーカーとして連結売上200億円規模のファイン製品事業を展開している企業

主力事業・セグメント
・化学（セグメント未開示）

強み・特徴（公開データから）
・－（判定に必要な数値が未開示）

※要約はAI生成のため誤りを含む可能性があります

暗記する数字3つ

連結売上高 －（未開示）	営業利益率 －（未開示）	財務健康度 46点 / 100点
-----------------	-----------------	---------------------

将来性 曇り時々雨 / 就活偏差値 52.2（当サイト算出の参考指標）

平均年収 717万円 化学内 99位/204社	平均年齢 41.8歳 化学内 115位/204社	平均勤続 15.3年 化学内 124位/204社	女性管理職 8.0% 化学内 68位/173社	男性育休 80.0% 化学内 83位/154社
-------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	-------------------------------	-------------------------------

※平均年収は提出会社単体・有価証券報告書ベース。順位は同33業種内の掲載企業での比較。

ここから下は自分で書く（面接で話すこと）

志望動機の核

上の数字・事業と接続して書く

自分の経験との接点

逆質問メモ

※1つはデータ起点で（例：勤続年数が長い要因は…）

直近ニュース一言

参考: 広栄化学(株)【4367】：決算情報

